

自分らしく生きていくために必要な 自ら考え自ら学ぶ力 をつける学び

そのために必要なのは？

考えることができるようになる



考えること自体が楽しいと思える



学びを楽しんでいる状態の創出



よりよい
未来社会を
創り出す
協創者

このような授業を実現する3つのポイント

1 「問い」から始まる学び

授業の原点は、生徒の「なぜだろう？」「何だろう？」という内側から湧いてくる疑問や、不思議だと思う感覚です。開建高校の授業では、このような疑問や感覚を大切に、「問い」として授業で取り上げながら、生徒を「**思わず考えてしまう**」ような状態へと誘います。

時を忘れ、思考に没頭する経験を繰り返すことで、深く、豊かに考えることができる力を身につけ、思考することそのものを楽しむことができます。

最終的には、教員ではなく自身で立てた「問い」に向かって学びを進めていくことで、自ら学んでいくことができる力を育みます。

2 対話・協働の学び

開建高校では、さまざまな場面で対話や協働を大切にしていきます。意見交換に終始するのではなく、一人一人の価値観や有している知識・技術の違いを共有し、組み合わせることで、**新しい考え方や価値観の創造を楽しみ**、対話・協働がもたらす世界の広がりを実感していくことを目指しています。

授業の場面でも、教員から生徒への知識の伝達が行われるのみにとどまらず、「問い」について思考する中で行う生徒同士、教員と生徒の創発的なコミュニケーションを通して学びを深めていきます。

3 個に応じた学び

集団で一緒に学んだとしても、個々の学びが同じとは限りません。開建高校では、日々の授業の振り返りを重視し、**一人一人の成長に目を向けていきます**。

また、一人の生徒の考えが多くの生徒の思考を促し、それによって集団の学びが深まることもあります。開建高校では個人の考えを尊重し、学びを進めていきます。

「問い」や「対話・協働」を意識した2教科横断の授業をご覧ください！

TODAY'S

教員も含めた周りの人との協働の結果、問いが何度も変換されていったり、常識だと思っていたものが崩れたりする面白さを経験していただき、

CHECK

「思わず考えてしまう」そんな状態を作ります。

POINT

今回は2つの教科が合同で授業を行い、それぞれの教科の視点から、共通の問いに迫っていきます。保護者の皆様も是非、生徒の皆さんの様子をご覧になりながら「**思わず考え**」てみてください！



画像はイメージです



この教室は開建高校のホームルーム教室である **Learning-pod** (通称 L-pod) です。授業の内容や目的に応じて、間仕切りの壁を動かして形を変える事も可能で、普通教室4倍の大きな学びの空間になります。この教室で様々な人と対話・協働しながら、開建高校の学びを深めていきます。

1コマ目の授業の問い：オリンピックのメダルに、金銀銅以外の4つ目のメダルを創るなら、誰にどの様なメダルを贈りますか？

英語 国際的な祭典ってどういうもの？

[授業の内容]
オリンピックが「国際的な」祭典というところに焦点を当て、近年発足されたIOC難民選手団の事例を取り上げ、オリンピックの国際的な意義について深めます。200以上の国や地域が参加していますが、それぞれの国が抱える事情は多種多様です。今後より良い祭典にしていくために、GlobalでありInternationalな視点から、この問いを考えてみましょう！

保健体育 スポーツって"する"だけ？

[授業の内容]
「スポーツ」とは何でしょう？「競技スポーツ」や「生涯スポーツ」と分けることもあります。またスポーツを「する・見る・支える」視点で捉えることもできます。体を動かすことだけがスポーツではなく、多様な視点でスポーツを捉え、スポーツについての新たな気づきを体験します。それらの気づきを活かしながら、この問いを考えてみましょう！



2コマ目の授業の問い：オリンピック2036における理想の開催地の条件は？

国語 想いを言葉で形にするには？

[授業の内容]
「どんなオリンピックになってほしい？」と聞かれたら、何と答えますか？「熱い」オリンピック？「盛り上がる」オリンピック？でも、これだけでは伝わりません。言葉に注目しながら、「抽象的に」、「具体的に」考えることを繰り返しながら、オリンピックの中身に思いをめぐらせ、表現することを通して、この問いを考えてみましょう！

地歴・公民 どんなところで開催している？

[授業の内容]
どんな街、国を開催地にしたいですか？それを考えるきっかけの一つが、これまでの開催地です。少しの工夫をするだけで、時代的な変化、地域的な変化、開催地の分布のかたよりなどが見えてきます。これまでの開催地という「事実」を社会科の観点から確認していくことで未来を考えるきっかけとし、この問いを考えてみましょう！

